



1 アトリエ



2 農業用の大きなため池



3 クヌギの古木



4 エノキの大木



10 園芸種の花畑



15 土手のエノキ



16 土手



17 菜の花とレンギョウ



8 雑木林



6 伐採した枝



4 クヌギのはさ木



11 ため池



9 ポタンクサギ



13 ピザなどを焼く窯



14 農具小屋



12 花畑での野焼き



18 夏の花畑



チョウの  
庭の地図

完成したチョウの庭を上から見たところ。いろいろな環境が配置されていることがわかります。



25 春にレンゲ畑になった田んぼ



24 腐葉土置き場



23 新園き場



19 庭のゲート



18 柿の古木



22 ユズ



21 デイリリー



20 レモン

# 春

土手から  
フキノトウが  
顔を出した

チヨウの庭に、春がやってきました。  
暖かい太陽の光をうけて、地面からフキノトウが顔を出し、つづいてタンポポが花びらをひらきました。大地がきゅうに華やかになり、命がよみがえったような感じがします。  
よく見ていると、チラチラと花びらのようなものもがいくつも舞っています。それらは春を待ちわびていたチヨウたち。お花畑の上を飛びかっつて、思うぞんぶん遊びます。





土手やあぜ道、畦の小道などは、定期的に草刈りをします。刈り終わった後は、そのまま放置して乾燥させます。



土手に咲くキンポウゲが大好きなのは、ヒメウラナミジャブメ。このチョウは、よく見るととても美しい目玉もふっもっています。



▲ベニシジミ。幼虫は、土手やあぜ道に生えるスイバやギシギシの葉を食べます。春から秋まで見られる庭のスターです。

◀ ツバメシジミ。幼虫は、土手のコマツナギの葉を食べます。庭でいちばんふつうに見られる青いシジミチョウです。

土手やあぜ道に生える植物たちは、まるで農家の人の仕事に、歩調を合わせているようです。このあたりでは1年に5回の草刈りをするのですが、その季節ごとに、さまざまな植物が花を咲かせます。もし、農家の人が草刈りをしなくなったら、早く背丈が高くなるものだけが光をうばい、多くの植物が姿を消していくでしょう。チョウの庭でも、まわりの農家に合わせて草を刈るようにしています。それによって、ベニシジミやツバメシジミといった、小さなチョウたちが、のびのびとくらしはじめました。これらの幼虫が食べる植物は、土手やあぜ道など、ひんぱんに草刈りをするところによく見かけます。



チガヤをおもに食べているのは、ヒメウラナミジャノメの幼虫。ぴよんぴよんと跳ねるように飛ぶ姿がともかわいいうちチョウで、わたしは大好きです。このまわりの棚田と同じく、土手やあぜ道には、チガヤが生えています。チガヤは、地面の中で根がからみ合って土手を強くするので、農家の人にとっても大切な植物です。

春に土手に生えるチガヤ。草刈りの手入れをしていると背丈が30センチメートルくらいにしかならないので、まわりをおおいつくすことはなく、まさに土手の芝生といった感じです。

## 大切な土手やあぜ

ガーデンエリアをとりまいている土手と、人が歩くためのあぜ道は、いちばん大切にしたい環境のひとつです。



## 春を代表する花

春の土手のクライマックスは、なんとといってもノアザミの開花です。あまい蜜がたくさん出るらしく、数多くのチョウがおとすれます。赤紫の花が土手に顔を見せはじめると、心からうれしくなってきます。

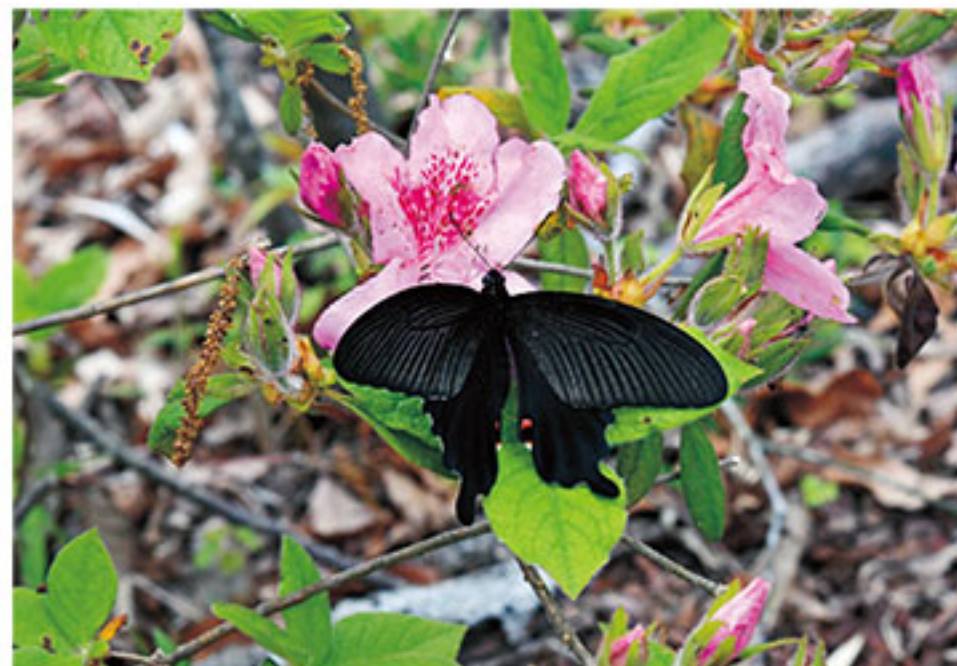


ノアザミをおとす蝶は、田んぼの土手は、水分をふくんでいるので、湿り気が好きな植物たちにとっては、好都合な環境です。



ダイミョウセセリは、はねを水平にひらいて蜜を吸います。黒地に白い斑紋が美しい。

Alice Kan



▲モチツツジにやってきたクロアゲハ。雑木林に自生するモチツツジは、昆虫たちにとって貴重な蜜源。



◀ コツバメの幼虫は、ツツジの花芽を食べて育ちます。早春にチラチラと舞うようすは、まるで花びらのようです（写真は、カタクリの花にやってきたところ）。



モンシロチョウのはねの純白とノアザミの赤紫色は、とてもよくあいます。



オオチャバネセセリなどのセセリチョウの仲間も、ノアザミが好きでいつもやってきます。



アゲハは、はばたきながらせわしなく蜜を吸います。

庭に咲くツツジの仲間



ミツバツツジ



モチツツジ



ヤマツツジ

ミツバツツジが満開になると、早春だけに見られるコツバメは、幼虫がツツジの花芽を食べます。このチョウは、かわいい姿をしているのでなんとか見たいのですが、はねの裏は茶褐色で、枯葉色の中にとまったりわかりません。

春本番になるころ、雑木林ではツツジが咲きはじめます。チョウの庭にあるツツジは、お店で売られているものではなく、もともとこのあたりに自生していた種類です。

ツツジの花は大ぶりで蜜がよく出るので、虫たちに大人気。蜜のたまっているところが深く、口吻が長いチョウしか蜜にありつけませんが、大柄なアゲハチョウの仲間にはびつたりのようにです。

ノアザミは、やや湿った土を好むようで、田んぼがとのえられ、きまったときしか水路に水がたまらなくなると、いつきに姿を消してしまいます。草刈りをしなくなると、風通しや日あたりが悪くなってもためなので、ノアザミが生えているところは、昔ながらの田んぼが維持されているという証拠にもなります。

ノアザミにやってくるチョウたちを見ると、今年も草刈りをやらねば、と気合いが入ります。